

42 破天荒

令和 二年度版
創刊
第四十二号

推薦入試等の真つ最中

十一月の声を聞く頃から、相生高校でも、推薦入試の動きが活発化してきました。専門学校などは、早いところは登校可能になった六月頃に、AOと銘打って、卒人数が埋まると危機感を煽っていたところもあります。私立大学の総合選抜型入試は、比較的従来の推薦に近いもののように、結果もまずまずではなかったかと思えます。

一方、国公立大学の総合型選抜入試については、書類選考を通過して、対面での受験の土台は上げてもらえましたが、簡単なものではありませんでした。やはり、わざわざ郷土を離れて、地元にある大学ではなく「何故？」他の地域の受験を選ぶのか、そこに何があるのかを、平均点ではなく、他の受験生を上回るアピール（ある意味、厚かましき）が、合格を勝ち取るには必要だと言わざるを得ません。

そんな中、文系の大学が先行して推薦入試が進んでいます。「よく頑張ってきたなあ」「何とかならないかなあ」で言えば、十一月段階では、前者の感覚です。

一方、理系はまだこれからです。実際は、大変苦しい闘いになると思っています。理由は、残念ながらそのような推薦入試を利用する生徒が、コロナウイルス禍での自宅学習を理由に、基本計算の練習を怠ったり、ただ何となく、参考書、ノートを開くが、ぼんやりとみているだけ、手をなかなか動かさない。これが現状です。

勿論、すべての責任が生徒にあるわけではなく、私達も配信だけに頼らず、コロナを恐れず、登校可能後は、追試等で生徒に負荷をかけて引張った方が良かったかもと、反省はあります。ただ、失われた時間を後悔している暇はなく、基礎計算を促す問題集を中心に、トレーニングすることの大切さを感じ、実践してくれることを信じて、校内で配信は継続しています。

それでも、産近甲龍と呼ばれる辺りの推薦入試の結果は、覚悟する必要があります。そこで、自分の現在の立ち位置を知って、再度挑戦する気持ちを持つことができれば、一般入試以降、合格は近付くでしょう。

間違っても、何故合格しなかったんだと、落ち込みすぎることがないように。受験は始まったばかりです。それ以上に、受験に臨む学力・体力は、まだまだこれからついていきます。

ただ、その努力を、特に記述練習の努力を惜しまなければ、の前提ですが。愚痴・不平・批判等は、全ての挑戦が終わったときにいくらでも聞くし、責めてくれたら良い。今は、各々に作ることを求めた、例のDEATHノートに、思い切り書き続けてくれても良い。いまは、後悔している時期ではない。

前を見て走る
振り返るのは復習のためのみ
全ては己の力にするために

入試関連の連絡事項など

出願期間が、年内・年始にまたがっている場合

調査書の評定は、2 学期末現在のものとなります。したがって、調査書発行願については、今まで通りに担任まで早めに申し出て、申請用紙の提出を忘れぬこと。

ただし、三者面談で保護者とも受験先等の確認を行います。調査書の準備・作成は、それ以降から取り掛かり、手渡しは、原則年明けとなります。

出願を急ぐ者は、個別に対応するので、早めに担任に相談をすること。

どの場合も、手渡されてすぐに出願ができるように、インターネット出願等、他の手続きは済ませておいて、調査書をもった足で郵送できるよう、時間調整しておくこと。

マスク着用・正しく着用・紛失した受験生の受験を認めぬ

～大学入試センター 11月20日(金)付

大学入試センターは、来年度の共通テスト「受験上の注意」として、

- ・マスク着用を義務
- ・フェースシールドやマウスシールドのみは受験不可
- ・受験一週間前から毎日の体温・体調の記録を要求
- ・休憩や食事は、自席でとる
- ・試験室出入り時の速乾性アルコール消毒
- ・換気で窓開放時の時間に対応する上着の準備

これらの注意を含んだ受験上の注意事項が間もなく皆さんの手元に、受験票とともに届きます。

いつもの年と違います。自分の目で必ず一読をしておいて下さい。当日、取り返しがつかなくなる前に。

関西大学 コロナウイルスの感染状況を踏まえて 入試日程の変更可能性あり これも 11月20日

国の緊急事態宣言発令の有無や、他大学の入試実施状況などを基に判断とのこと。

延期した場合は、主要都市の6～7会場に集約して、入試を行うことが濃厚。早めの対応をする予定のようである。

破天荒の発行も、いよいよ終わりに近づいています。この先は、ひたすら励まし、前向きなものになるので、最後の嘆き、愚痴をご容赦ください。第四十一号で、志望理由について述べました。十一月は、面接を伴う推薦入試を控えた生徒の面接練習の仕上げを任されています。状況・途中経過は、関わって下さった先生方からお聞きしていますが、競争心のない時代なのか、アピールのない無機質な言葉が大変多い。面接が評価点になるということは、最初のアピールの中に、「この受験生をもっと知ってみたい、どんな対応をするかを探してみたい、本質の質問を聞いてみたい。」そこに、評価が加算されていくと思えますが、本音を言わない、本音がない、本当に何をしたいのかがない、そこに夢を置いているのかを疑問に思ってしまう。経験がないわけではない、調べていない訳でもない、ただ、真面目なのか、使い方を考えようとしていない、「この質問にはこの文章」的なものが多過ぎました。

是非、次の機会、それは恐らく就職活動になるのではと思いますが、聞かれた質問には、必ず自分の想いが語れる経験を、次のステージでは自分の言葉で表現する練習をしてもらいたい。

そういった材料になるようにと、日々、さまざまな分野のニュースに自分のコメントを付けて配信したり、毎日連絡白板に、生徒の姿から言葉を書き続けましたが、伝える努力をする前に、生徒の心を開く努力をする必要がありましたね。

もし、この先、あるいは来世に、教員を目指し、このような機会を与えられたならば、今回の経験を糧にしたいと思えます。

最後のつまらない愚痴ですみませんでした。こんな愚痴も、一度は生徒の皆さんの目に留まることを、最後に祈りたいと思います。

破天荒もあと僅か
最後に少しだけ愚痴ってもいいですか？

創立記念国際理解講演会
衆議院議員 山口壯氏をお迎えして
「コロナ後のグローバル化の無限の可能性」

十一月四日（水）五・六時間目に、令和2年度の創立記念講演会が、地元衆議院議員の山口壯氏をお迎えして行われました。相高校生だけでなく、未来ある若者に向けての熱いメッセージを、四十二回生が次のように受け止めました。
山口先生、お忙しい中、ありがとうございます。

私は、山口先生の講演を聞き、考えたことが一つありました。一つは、「言語の壁を埋めるには学生の時から学べ」ということです。学生時代に学ぶことが将来に役に立つとは思っていませんでした。かなりおろそかにしていましたが、今からでも学ぶ姿勢を変えていこうと思いました。

二つ目は、「ダーウインの進化論」についてです。哺乳類は変化することができたが、恐竜は変化することができずに生き残れなかったということから、人間も変化を繰り返さないと、いつかは無くなってしまおうと考えると少し怖くなりました。
(2組男子)

私自身、山口さんのことは、相生市内で昔からボスターなどで見たことがあったので、実際にお会いすることができて嬉しかったです。特に印象に残ったことは「学校で習う英語が世界で一番格好いい英語」という言葉でした。実際に、たくさんの経験をされている方からの言葉は、重みがすごくきちんと英語に取り組みもうと思いました。
(1組女子)

今回の講演を聴いて、グローバル化の中で自分達に何が求められており、世界の人々とどう関わっていくべきかが分かりました。僕の心に残ったことは、「魂の復興」という言葉でした。変わり続ける答えのない世界において、国境など関係なく、人々を思いやる気持ち、今も昔も大切なのではないかと感じました。
(1組男子)

講演の最中に仰られていた、一人一人が広い視野を持って、グローバル化について考えなければいけないということは、今の生活にも根付けることが重要だと思いました。今やっている勉強もいざれ役立つときがくると思いながら、最後までやり切りたいと思いました。先生が仰られた、小説を読むことを実践して、今よりもっと知識を増やして想像力を磨きながら、大學生を送ろうと思いました。
(2組女子)



山口先生のお話の中で、裾野を広げていけば大きな山になるから、私達が高校で学ぶことは無駄ではないと仰って下さったことが、一番心に残りました。

また、「努力した人に運が回ってきて、道なきところに道は開ける」というお話も、今の自分の心にとっても響いて、「また頑張ろう」と思えました。最後まで受験勉強を頑張りたいと思います。
今日は本当にありがとうございました。
(3組女子)

私には、「自分で決めた仕事だからこそ最後までやり通せる」「自分の努力によって運をつける」という言葉がとても印象的でした。自分にも夢があるので、小説を読んで様々な人の考えや、世界の事象を学んで自分の経験とし、様々な視点から物事を考えられる人になりたいです。

また、受験に向けても、今日からできることがまだ残っているので、自分のいまでできることを本気で取り組み、運を身に付けられる努力を、諦めずに続けます。
(4組女子)

現在、コロナウイルスなどの感染症や、地球温暖化、領土問題、宗教問題などで、未来の日本の姿や世界の姿が予想できないなか、受験という人生の分岐点にいる自分が、今一番しないといけないこと、それは、「一日も無駄にせず努力することだ」ということが分かりました。自分の夢を叶え、日本を世界を変えたいと思っている人は、それだけの努力をしています。

私に残された日数は少ないですが、日々頑張っていきたいです。
(4組男子)



日本の歴史を振り返りながら、現代の日本という環境を注目することで、それまで気付くことができなかった問題や、矛盾を発見することができると思いました。また、グローバル化の促進のためには、みんな一人一人が、「貢献しよう」「努力しよう」とする『魂』を持つことが大切だということも分かりました。そのような話を聞いたという経験を活かしながら、社会の一員として、少しでも貢献できるように、日々を過ごしていきたいと思います。
(3組男子)

今回の講演を聞いて本当に嬉しかったのは、私達が根本から「魂」を変えていく必要があるということを知ることができたことです。人間の本质を変えることは本当に難しいことだと、私も思います。現在の社会問題と合わせて考えるならば、本当に人と関わる機会が少なくなってきたと思います。

私は、小学、中学、高校と、今までたくさんの方に関わりました。その中で、私も少なからず、人に影響されてきたと思っています。人と人とが繋がるのが、本当に必要で大切なことを改めて思います。
(5組女子)

今日の講演を聞いて、自分の視野や考え方ももっと広く持つことが大切だと思いました。外国に向けてだけではなく、国内であっても考え方の違う人は必ずいると思うので、そのような人達とお互いに分かり合えるよう、小説を読んだり、いろいろな人と関わりを持つようにしたいと思います。

また、「自分を変えることができるかどうかが大事」という言葉をしっかりと覚えておこうと思いました。
(5組男子)

十二月の予定

- 三日（木）～ 九日（水）
 - 二学期期末考査(相高最後の定期考査(予定))
 - 三日（日）
 - 駿台共通プレテスト(校外希望者)
 - 十日（月）～
 - 午前中授業(三・四・五・六限)
 - 十六日（水）
 - CC
 - 二十一日（月）～ 二十五日（金）
 - 保護者懇談会
 - 二十四日（木）
 - 二学期終業式 大掃除
- 次号は、終業式に発行予定です。

ひたむきに ひたすらに 夢にときめけ